

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：22701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23791346

研究課題名(和文)前頭側頭葉変性症の多様性についての臨床病理学的研究

研究課題名(英文)Clinicopathological study of frontotemporal lobar degeneration

研究代表者

勝瀬 大海 (Katsuse, Omi)

横浜市立大学・医学部・講師

研究者番号：40420674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：まず、前頭葉側頭葉変性症(FTLD)様の症状を呈した非定型な症例として3例のNasu-Hakola病とハンチントン舞踏病に神経線維腫症1型を合併した1例について臨床病理学的特徴をまとめ報告した。次に66例のFTLDについて臨床病理学的特徴をまとめた。その結果、FTLD-TDPの臨床症状は多様だが亜型によって症状が異なる傾向がみられた。さらにFTLDの原因タンパクの1つであるFUS proteinは神経細胞の核内や樹状突起の後シナプスに存在し、FUS顆粒の量が増加していることが病態と関連しているのではないかと考えられた。

研究成果の概要(英文)：We reported 3 cases of Nasu-Hakola disease and a case of concurrent Huntington's disease and neurofibromatosis type 1. These cases had clinical presentation like frontotemporal lobar degeneration (FTLD). And, clinical and pathological features of 66 cases with FTLD were studied. Although FTLD is clinicopathological heterogeneous disorders, our results suggest that there pathological subtypes tend to have particular clinical symptoms. Further, we pathologically studied the localization of fused in sarcoma (FUS) protein which is one of some proteins leading to FTLD. The results revealed that FUS protein is detected in the post-synaptic density.

研究分野：認知症

キーワード：認知症 神経変性疾患

1. 研究開始当初の背景

古典的にピック病と呼ばれていた疾患は近年の臨床病理学的研究により、異なる病態機序を有する幾つかの疾患群を含んでいることが明らかになり、これらを総称し前頭側頭葉変性症 (frontotemporal lobar degeneration: FTLD) と呼ばれている。FTLD はアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症について3番目に多い変性性認知症と考えられ、その頻度は稀ではない。臨床的には病初期から進行性の人格・行動の変化もしくは言語機能障害を特徴とし、著しい攻撃性、易怒、興奮、抑動的脱抑制といった様々な精神症状や窃盗、徘徊、性的脱抑制などの問題行動を呈することが多く、精神医療の介入が最も必要な認知症疾患である。しかし、臨床症状は多様であるため正確な診断がなされていない場合も多い。また、病因や病態機序も多様で不明な点が多いため、十分な治療も確立しておらず精神科病院で長期の入院がやむおえないことも多い。病理学的に FTLD は前頭側頭葉、前頭葉もしくは側頭葉の萎縮をきたす非アルツハイマー型認知症の総称で、ピック病、皮質基底核変性症(CBD)、進行性核上性麻痺(PSP)などのタウ蛋白の蓄積する疾患群と、タウ蛋白の蓄積がみられない疾患群に大別される。しかし、現在の知見では臨床的にこれらの各疾患を区別することは出来ず、またタウ蛋白の蓄積がみられない FTLD については十分な病理学的定義も確立していない。申請者はタウ蛋白の蓄積がみられない疾患群のほとんどはユビキチン陽性神経細胞内封入体やユビキチン陽性神経突起の出現を特徴とすることを示したが、最近の研究では、これらのユビキチン陽性構造物の主構成成分が TDP-43 (FTLD-TDP) もしくは FUS protein (FTLD-FUS) であることが明らかにされた (Science 2006, Brain 2009)。このように FTLD の重要な病因が少しずつ明らかにされ、今後のさらなる研究の発展に期待が集まっている。

2. 研究の目的

- (1) FTLD 様の非定型の経過をたどった症例について臨床病理学的特徴をまとめ報告を行い、多様な FTLD の臨床症状や病理所見の理解を深めることを目的とする。
- (2) FTLD の臨床症状の特徴と病理学的特徴との関係をあきらかにする。
- (3) FTLD の蓄積タンパクの1つである FUS タンパクの局在や蓄積様式について検討を行う。

3. 研究の方法

- (1) 横浜市立大学医学部精神医学教室および東京都医学総合研究所に保存されている剖検脳の中で FTLD 様の症状を呈した3例の Nasu-Hakola 病とハンチントン舞蹈病について臨床病理学的特徴をまとめた。

Nasu-Hakola 病については特に灰白質病変について詳細に検討した。ハンチントン舞蹈病の症例は神経線維腫症型を合併したまれな症例であった。

- (2) 東京都医学総合研究所に保存されている FTLD の 66 剖検脳について東京都医学総合研究所と共同で研究を行い、臨床病理学的特徴をまとめた。すべての症例について臨床病型を分類した。また、一般染色に加え抗タウ抗体、抗ユビキチン抗体、抗 TDP-43 抗体、抗 FUS 抗体などによる免疫染色を用い病理学的分類を行った。

- (3) 東京都医学総合研究所に保存されているの5例の FTLD-FUS、9例のアルツハイマー型認知症、9例の正常高齢者の剖検脳について東京都医学総合研究所と共同で研究を行った。これらの剖検脳について抗 FUS 抗体、抗 MAP-2 抗体、抗リン酸化 neurofilament 抗体、抗 synaptophysin 抗体などを用いた免疫組織化学などを行い FUS protein の細胞内局在の検討を行った。

4. 研究成果

- (1) Nasu-Hakola 病の灰白質病変の特徴は罹病期間に比例して視床、尾状核、被殻、中脳黒質などに顕著な神経細胞脱落とグリオシスを認めたことであった。これらの所見は人格変化や錐体外路症状などの臨床症状と関連していると考えられた。ハンチントン舞蹈病と神経線維腫症型の合併は世界で3例目のまれな症例報告であった。その病理学的特徴はポリグルタミン陽性の封入体が大脳皮質や海馬、扁桃核にみられるだけでなく小脳にもみられることが特徴であった。一方で神経線維腫症型による中枢内病変は認められなかった。

- (2) 66 例の FTLD の病理分類の結果は FTLD-tau 27 例、FTLD - TDP 29 例、FTLD-FUS 9 例、分類不能 1 例であった。さらに FTLD-tau 27 例の内訳はピック病 18 例、CBD 4 例、PSP 3 例、その他 2 例であった。FTLD-TDP 29 例の亜型は Type A 5 例、Type B 13 例、Type C 10 例、分類不能が 1 例であった。FTLD-TDP 29 例の亜型による臨床症状の特徴は Type A のうち 3 例は前頭側頭型認知症で Type B は 9 例が筋萎縮性側索硬化症を伴い、Type C では意味性認知症が 7 例と最も多かった。このように FTLD-TDP の臨床症状は多様だが亜型によって症状が異なる傾向がみられた。

- (3) FUS protein は神経細胞の核内にみられ、さらに MAP-2 や synaptophysin と共存していることから樹状突起の後シナプスに存在していることが示唆された。さらに FTLD-TDP ではアルツハイマー型認知症脳や正常高齢者と比べ大脳皮質での FUS 顆粒の量が増加していることが分かり、このことと病態との関連が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13 件)

Chiba Y, Katsuse O, Fujishiro H, Kamada A, Saito T, Ikura T, Takahashi Y, Kunii M, Takeno M, Hirayasu Y. Lymphopenia Helps Early Diagnosis of Systemic Lupus Erythematosus for Patients With Psychosis as an Initial Symptom. *Psychosomatics*. 査読有. 2015 ;56: 85-88. DOI: 10.1016/j.psym.2013.07.001

Kawakami I, Katsuse O, Aoki N, Togo T, Suzuki K, Isojima D, Kondo D, Iseki E, Kosaka K, Akiyama H, Hirayasu Y. An Autopsy case of concurrent Huntington's disease and neurofibromatosis type 1. *Psychogeriatrics*. 査読有. 2014; 14: 81-86. DOI: 10.1111/psy.12040

Kasanuki K, Iseki E, Kondo D, Fujishiro H, Minegishi M, Sato K, Katsuse O, Hino H, Kosaka K, Arai H. Neuropathological investigation of hypocretin expression in brains of dementia with Lewy bodies. *Neurosci Lett*. 査読有. 2014; 21; 68-73. DOI: 10.1016/j.neulet.2014.03.020

Kawakami I, Hasegawa M, Arai T, Ikeda K, Oshima K, Niizato K, Aoki N, Omi K, Higashi S, Hosokawa M, Hirayasu Y, Akiyama H. Tau accumulation in the nucleus accumbens in tangle-predominant dementia. *Acta Neuropathol Commun*. 査読有. 2014; 2: 40. DOI: 10.1186/2051-5960-2-40

齋藤 知之, 勝瀬 大海, 平安 良雄. 【統合失調症をもつ高齢者への医療と生活支援】(第 1 章)総論 精神障害者の高齢化 その実態と未来予測 医学的側面からみた精神障害者の高齢化. *精神科臨床サービス*. 査読無. 2014; 14, 11-16. <http://www.seiwa-pb.co.jp/search/bo01/b00110/bn/14/01index.html>

Chiba Y, Katsuse O, Takahashi Y, Yoneda M, Kunii M, Ihata A, Ueda A, Takeno M, Togo T, Hirayasu Y. Anti-glutamate receptor $\epsilon 2$ antibodies in psychiatric patients with anti-thyroid autoantibodies--a prevalence study in Japan. *Neurosci Lett*. 査読有. 2013 ; 534: 217-222. DOI: 10.1016/j.neulet.2012.10.060

Aoki N, Tsuchiya K, Kobayashi Z, Arai T, Togo T, Miyazaki H, Kondo H, Ishizu H, Uchikado H, Katsuse O, Hirayasu Y, Akiyama H. Progressive nonfluent aphasia: A rare clinical subtype of FTLN-TDP in Japan. *Neuropathology*. 査読有. 2012; 32: 272-279. DOI: 10.1111/j.1440-1789.2011.01253.x

Kasanuki K, Iseki E, Fujishiro H, Yamamoto R, Higashi S, Minegishi M, Togo T, Katsuse O, Uchikado H, Furukawa Y, Hino H, Kosaka K, Sato K, Arai H.

Neuropathological investigation of the hypometabolic regions on positron emission tomography with [(18)F] fluorodeoxyglucose in patients with dementia with Lewy bodies. *J Neurol Sci* 査読有. 2012; 314:111-119. DOI: 10.1016/j.jns.2011.10.010

Aoki N, Higashi S, Kawakami I, Kobayashi Z, Hosokawa M, Katsuse O, Togo T, Hirayasu Y, Akiyama H. Localization of fused in sarcoma (FUS) protein to the post-synaptic density in the brain. *Acta Neuropathol*. 査読有. 2012; 124: 383-394. DOI: 10.1007/s00401-012-0984-6

伊倉 崇浩, 勝瀬 大海, 鎌田 鮎子, 土居 浩, 鶴貝 紗矢子, 千葉 悠平, 岸田 郁子, 浅沼 和哉, 金澤 さやか, 都甲 崇, 平安 良雄. 急性期症状が明らかでなかった間歇型一酸化炭素中毒の 1 例. *精神科治療学*. 査読有. 2012; 27,1085-1091. <http://www.seiwa-pb.co.jp/search/bo01/b00102/bn/27/08index.html>

千葉 悠平, 勝瀬 大海, 都甲 崇. 【気分障害の治療ガイドライン新訂版】(第 6 章)身体疾患と抑うつ 甲状腺機能障害. *精神科治療学*. 査読無. 2012; 27, 239-243. <http://www.seiwa-pb.co.jp/search/bo01/b00102/bn/27/zokan.html>

Aoki N, Tsuchiya K, Togo T, Kobayashi Z, Uchikado H, Katsuse O, Suzuki K, Fujishiro H, Arai T, Iseki E, Anno M, Kosaka K, Akiyama H, Hirayasu Y. Gray matter lesions in Nasu-Hakola disease: A report on three autopsy cases. *Neuropathology*. 査読有. 2011; 31: 135-143. DOI: 10.1111/j.1440-1789.2010.01152.x

Higashi S, Moore DJ, Minegishi M, Kasanuki K, Fujishiro H, Kabuta T, Togo T, Katsuse O, Uchikado H, Furukawa Y, Hino H, Kosaka K, Sato K, Arai H, Wada K, Iseki E. Localization of MAP1-LC3 in vulnerable neurons and Lewy bodies in brains of patients with dementia with Lewy bodies. *J Neuropathol Exp Neurol*. 査読有. 2011; 70: 264-280. DOI: 10.1097/NEN.0b013e318211c86a

〔学会発表〕(計 48 件)

Abe K, Chiba Y, Katsuse O, Hirayasu Y. A case of Parkinson's disease that gabapentin effected on both visual hallucinations and pain. 12th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases and Related Neurological Disorders, 2015 年 3 月 17-24 日, Nice. (フランス)

戸代原奈央, 千葉悠平, 吉見明香, 玉澤 彰英, 須田 顕, 阿部紀絵, 許 博陽, 勝瀬 大海, 平安良雄. 早期から幻視が先行したレビー小体型認知症の一例. 第 166 回神奈川 県精神医学会, 2015 年 2 月 21 日, AP 横浜駅

西口(神奈川県横浜市).

阿部紀絵、千葉悠平、吉見明香、許博陽、戸代原奈央、勝瀬大海、平安良雄. 疼痛と幻視に対して gabapentin が有効だったパーキンソン病の認知症の1例. 第33回日本認知症学会, 2014年11月29日-12月1日, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市).

齋藤知之、浜真麻、千葉悠平、勝瀬大海、鎌田鮎子、伊倉崇浩、峰岸薫、井畑敦、石ヶ坪良明、平安良雄. 脳 FOG-PET 所見が全身性エリテマトーデスによるうつ病の臨床経過を反映した2症例. 第34回日本精神科診断学会, 2014年11月13-14日, 大和屋本店(愛媛県松山市)

許博陽、千葉悠平、吉見明香、阿部 紀絵、戸代原奈央、勝瀬大海、平安良雄. アルコール乱用と精神病症状が発病に先行したハンチントン病の1例. 第34回日本精神科診断学会, 2014年11月13-14日, 大和屋本店(愛媛県松山市)

鎌田鮎子、勝瀬大海、岳野光洋、千葉悠平、伊倉 崇浩、齋藤知之、浜真麻、石ヶ坪良明、平安良雄. 精神神経症状が身体症状に先行してみられたベーチェット病の一例. 第34回日本精神科診断学会, 2014年11月13-14日, 大和屋本店(愛媛県松山市)

鈴木京子、山口章、川島真人、神崎誠一、勝瀬大海、都甲崇、山口佳代子、幸光範子、南澤磨優覧、藤田雅代、橋本款、山中正二、平安良雄. サンドホフ病モデルマウスにおけるシヌクレインの病態への関与と機能研究. 第87回日本生化学会, 2014年10月15-18日, 国立京都国際会館(京都府).

伊倉崇浩、勝瀬大海、千葉悠平、高橋幸利、藤城弘樹、岳野光洋、浜真麻、鎌田鮎子、齋藤知之、平安良雄. 抗甲状腺抗体を有する精神疾患患者におけるELISA法を用いた抗グルタミン酸受容体サブユニット(NR1-NT, NR2B-NT2)抗体抗体価の測定. 第36回日本生物学的精神医学会, 2014年9月29日-10月1日, 奈良県文化会館(奈良県).

河上緒、池田研二、新井哲明日、大島健一、新里和、勝瀬大海、平安良雄、秋山治彦. tangle-predominant dementia の精神医学的特徴. 第29回日本老年精神医学会, 2014年6月12-13日, 日本教育会館(東京都)

吉見明香、勝瀬大海、浅見剛、高石政男、河上緒、井出恵子、松本香織、玉津彰英、千葉悠平、平安良雄. 抗認知症薬の切り替えによりBPSDが悪化した一例-ドネペジル塩酸塩からリパスチグミンへの切り替え-. 2014年6月12-13日, 第29回日本老年精神医学会, 日本教育会館(東京都)

近藤大三、笠貫浩史、藤城弘樹、峯岸道子、佐藤潔、日野博昭、勝瀬大海、小阪憲司、平安良雄、新井平伊、井関栄三. レビー小体型認知症剖検脳のMelanin-Concentrating Hormone (MCH) 発現に関する神経病理学的検討. 第55回日本神経病理学会, 2014年6月5-7日, 学術総合

センター(東京都),

Chiba Y, Katsuse O, Fuiishiro H, Kamada A, Saito T, Ikura T, Takahashi Y, Kunii M, Takeno M, Hirayas Y. Lymphopenia helps early diagnosis of systemic lupus erythematosus for patients with psychosis as an initial symptom. 12th Psychoimmunology Expert Meeting, 2014年3月6-9日, Guenzburg. (ドイツ)

Saito T, Hama M, Chiba Y, Katsuse O, Kamada A, Ikura T, Minegishi K, Ihata A, Takahash Y, Ishigatsubo Y, Hirayasu Y. Two cases of mild neuropsychiatric systemic lupus erythematosus that responded to immunotherapy and exhibited improvement of brain [18F]-fluoro-d-glucose positron emission tomography. 12th Psychoimmunology Expert Meeting, 2014年3月6-9日, Guenzburg. (ドイツ)

政岡数紀、齋藤知之、須田顕、千葉悠平、鈴木将裕、炭谷早紀、浅沼和哉、浅見剛、勝瀬大海、平安良雄. 精神症状と認知機能障害を呈し免疫療法が著効した抗NAE抗体陽性の自己免疫性脳症の1例. 第26回日本総合病院精神医学会, 2013年11月29-30日、京都テルサ(京都府京都市)

鎌田鮎子、勝瀬大海、伊倉崇浩、齋藤知之、千葉悠平、平安良雄. 神経免疫外来におけるベーチェット病患者の精神医学的および神経心理学的特徴の検討. 第26回日本総合病院精神医学会, 2013年11月29-30日、京都テルサ(京都府京都市)

笠貫浩史、藤城弘樹、峯岸道子、勝瀬大海、近藤大三、小阪憲司、佐藤潔、新井平伊、井関栄三. レビー小体型認知症脳におけるhypocretin発現に関する神経病理学的検討. 第32回日本認知症学会, 2013年11月8-10日、キッセイ文化ホール(長野県松本市)

河上緒、新井哲明、横田修、新里和弘、大島健一、勝瀬大海、松下正明、平安良雄、秋山治彦. 舞踏病様不随意運動を呈するFTLD-FUSの臨床病理学的検討. 第32回日本認知症学会, 2013年11月8-10日、キッセイ文化ホール(長野県松本市)

宮内雅利、岸田郁子、須田 顕、白石洋子、加藤大慈、勝瀬大海、河西千秋: 気分障害患者における抗うつ処方調査. 第23回日本臨床精神神経薬理学会, 2013年10月24日、沖縄コンベンションセンター(沖縄県).

鈴木将裕、須田 顕、齋藤知之、瀬本みさと、浅見 剛、古庄 竜、勝瀬大海、平安良雄: ミトコンドリア病による双極性障害にアリピプラゾールが有効であった一例. 第99回東京精神医学会, 2013年10月12日、昭和大学16号館講義室(東京都)

河上 緒、長谷川成人、新井哲明、勝瀬大海、平安良雄、秋山治彦: Tangle-predominant dementia の側坐核にお

ける病理学的検討．第 40 回日本脳科学会，2013 年 9 月 28 - 29 日，アクトシティ浜松（静岡県）．

②① 齋藤知之，千葉悠平，勝瀬大海，玉津彰英，山本かおり，都甲崇，内門大丈，藤城弘樹，佐伯彰，小田原俊成，平安良雄．認知症終末期患者のケアに関する家族の満足度についての後方視的調査．第 109 回日本精神神経学会，2013 年 5 月 23 - 25 日，福岡国際会議場（福岡県）

②② 河上緒，新井哲明，新里和弘，大島健一，東晋二，青木直哉，勝瀬大海，松下正明，平安良雄，秋山治彦．舞蹈病様不随運動を呈する FTLD-FUS の臨床病理的検討．第 109 回日本精神神経学会，2013 年 5 月 23 - 25 日，福岡国際会議場（福岡県）

②③ 伊倉崇浩，勝瀬大海，政岡数樹，齋藤知之，千葉悠平，鎌田鮎子，加藤大慈，平安良雄．高度な認知機能低下を認めた多系統萎縮症の 1 例．第 109 回日本精神神経学会，2013 年 5 月 23 - 25 日，福岡国際会議場（福岡県）

②④ 河上 緒，長谷川成人，新井哲明，青木直哉，勝瀬大海，東 晋二，大島健一，新里和弘，近藤ひろみ，羽賀千恵，下村洋子，山下万貴子，鈴木京子，平安良雄，秋山治彦：Tangle-predominant dementia の側坐核における病理学的検討．第 54 回日本神経病理学会，2013 年 4 月 24 - 26 日，タワーホール船堀（東京都）

②⑤ 辻村理司，齋藤 聖，井上佳祐，伊倉崇浩，岩本洋子，勝瀬大海，加藤大慈，平安良雄．クロザリルが奏功した 1 例．第 164 回神奈川県精神医学会，2013 年 2 月 16 日，AP 横浜駅西口（神奈川県横浜市）

②⑥ 井上佳祐，齋藤 聖，辻村理司，伊倉崇浩，岩本洋子，勝瀬大海，加藤大慈，平安良雄．横浜市立大学附属病院精神科におけるクロザピンの使用経験．第 164 回神奈川県精神医学会，2013 年 2 月 16 日，AP 横浜駅西口（神奈川県横浜市）

②⑦ 伊倉崇浩，藤城弘樹，勝瀬大海，鎌田鮎子，園井美紗子，千葉悠平，齋藤知之，岸田郁子，平安良雄．レビー小体型認知症に橋本脳症の合併が疑われた 1 例．第 32 回精神科診断学会，2012 年 11 月 22 - 23 日，カルチャーリゾート・フェストーネ（沖縄県）．

②⑧ 齋藤知之，勝瀬大海，千葉悠平，鎌田鮎子，伊倉崇浩，藤城弘樹，園井美紗子，浅沼和哉，井上佳祐，辻村理司，米田誠，平安良雄．抗 NAE 抗体陽性，抗甲状腺抗体陰性で双極 I 型障害様の症状を呈した 1 例．第 32 回精神科診断学会，2012 年 11 月 22 - 23 日，カルチャーリゾート・フェストーネ（沖縄県）．

②⑨ 千葉悠平，勝瀬大海，藤城弘樹，鎌田鮎子，齋藤知之，伊倉崇浩，園井美紗子，岳野光洋，平安良雄．リンパ球減少所見が診断の契機となった，精神症状が初発の全身性エリテマトーデスの 2 症例．第 32 回精神科診断学会，2012 年 11 月 22 - 23 日，カルチャー

リゾート・フェストーネ（沖縄県）．

③⑩ 鎌田鮎子，勝瀬大海，伊倉崇浩，齋藤知之，千葉悠平，園井美紗子，藤城弘樹，平安良雄．不安・抑うつを伴う軽度認知機能障害を呈したベーチエツト病の 1 例．第 32 回精神科診断学会，2012 年 11 月 22 - 23 日，カルチャーリゾート・フェストーネ（沖縄県）．

③⑪ Ito Kawakami, Shinji Higashi, Naoya Aoki, Kazuhiro Niizato, Kenichi Oshima, Omi Katsuse, Takashi Togo, Zen Kobayashi, Masato Hosokawa, Hiroshi Tsuji, Akira Tamaoka, Masato Hasegawa, Tetsuaki Arai, Kuniaki Tsuchiya, Yoshio Hirayasu, Haruhiko Akiyama. Three autopsy cases of FTD-MND with Progressive aphasia. The 8th International Conference on Frontotemporal Dementias, 2012 年 9 月 5 - 7 日, Manchester. (イギリス)

③⑫ 瀬本みさと，浅見剛，吉田晴久，浅沼和哉，齋藤知之，千葉悠平，勝瀬大海，小田原俊 成，平安良雄．認知症治療病棟における看取り医療への取り組み．第 95 回東京精神医学会，2012 年 7 月 14 日，東京慈恵会医科大学南講堂（東京都）

③⑬ 河上緒，東晋二，青木直哉，新里和弘，大島健一，安野みどり，羽賀千恵，下村洋子，鈴木京子，勝瀬大海，都甲崇，小林禅，辻浩史，玉岡晃，長谷川成人，新井哲明，土谷邦秋，平安良雄，秋山治彦．進行性失語が前景に立った運動ニューロン疾患を伴う前頭側頭型認知症の 2 剖検例．第 53 回日本神経病理学会，2012 年 6 月 28 - 30 日，朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター（新潟県）

③⑭ 笠貫浩史，藤城弘樹，峯岸道子，東晋二へ，都甲崇，勝瀬大海，内門大丈，日野博昭，小阪憲司，佐藤潔，新井平伊，加藤雅紀，井関栄三．Fahr 病の 2 剖検例：老人性病理を欠く 47 歳家族性石灰化症例とアルツハイマーおよびレビー病理を伴う 80 歳孤発例．第 53 回日本神経病理学会，2012 年 6 月 28 - 30 日，朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター（新潟県）

③⑮ 千葉悠平，勝瀬大海，浜真麻，高橋幸利，鎌田鮎子，齋藤知之，伊倉崇浩，加藤大慈，平安良雄．長期のエンドキサンパルス療法により，精神症状，認知機能障害の改善を認め た ， neuropsychiatric lupus erythematosus の 1 例．第 108 回日本精神神経学会，2012 年 5 月 24 - 26 日，札幌コンベンションセンター（北海道）

③⑯ 伊倉崇浩，勝瀬大海，鎌田鮎子，土居浩，鶴貝紗矢子，岸田郁子，齋藤聖，千葉悠平，浅沼和哉，金澤さやか，都甲崇，平安良雄．急性期症状が明らかでない間歇型一酸化炭素中毒の 1 例．第 108 回日本精神神経学会，2012 年 5 月 24 - 26 日，札幌コンベンションセンター（北海道）

③⑰ 金澤さやか，勝瀬大海，岸田郁子，伊倉崇浩，園山友紀，都甲 崇，平安良雄．低 Mg 血症から心肺停止となったアルコール依存

症の一例．第 163 回神奈川県精神医学会、2012 年 2 月 18 日、AP 横浜駅西口(神奈川県横浜市)

③⑧ 鎌田鮎子、加藤大慈、宮内雅利、勝瀬大海、都甲崇、平安良雄．がん治療を契機に広場恐怖を克服できた一例．第 24 回日本総合病院精神医学会、2011 年 11 月 25 - 26 日、福岡国際会議場(福岡県)．

③⑨ 千葉悠平、勝瀬大海、高橋幸利、米田誠、國井美沙子、井畑淳、上田敦久、岳野光洋、都甲崇、平安良雄．甲状腺自己抗体陽性精神科患者における精神神経症状と抗グルタミン酸受容体 2 抗体の関連についての臨床的検討．第 24 回日本総合病院精神医学会、2011 年 11 月 25 - 26 日、福岡国際会議場(福岡県)．

④⑩ 勝瀬大海．HIV 感染患者にみられる精神症状．第 4 回神奈川 HIV フォーラム、2011 年 10 月 28 日、横浜ロイヤルパークホテル(神奈川県横浜市)．

④⑪ 勝瀬大海．知っておきたい器質性精神疾患の新知识 橋本脳症．第 107 回日本精神神経学会、2011 年 10 月 26 - 27 日、ホテル・グラン・パシフィック・ル・ダイバ(東京都)．

④⑫ 山口隆之、都甲崇、野本宗孝、上条敦史、中川牧子、鎌田鮎子、細島英樹、勝瀬大海他．抗精神病薬服薬中の QOL と性機能障害に関する調査研究．第 107 回日本精神神経学会、2011 年 10 月 26 - 27 日、ホテル・グラン・パシフィック・ル・ダイバ(東京都)．

④⑬ 河上緒、勝瀬大海、青木直哉、東晋二、鈴木京子、都甲崇、新井信隆、秋山治、平安良雄．神経線維腫症 1 型にハンチントン病を合併した 1 剖検例．第 98 回日本神経病理学会関東地方会、2011 年 8 月 6 日、東京医科歯科大学(東京都)．

④⑭ 伊倉崇浩、勝瀬大海、岸田郁子、浅沼和哉、金澤さやか、園山友紀、鎌田鮎子、都甲崇、平安良雄．急性期症状が軽度であった間歇型一酸化炭素中毒の一例．第 162 回神奈川県精神医学会、2011 年 7 月 9 日、鶴見公会堂(神奈川県横浜市)．

④⑮ 宮内雅利、齋藤聖、勝瀬大海、鎌田鮎子、高橋美江、石橋由梨、都甲崇、平安良雄．横浜市立大学附属病院精神科における高齢者気分障害入院患者についての後方視的検討．第 162 回神奈川県精神医学会、2011 年 7 月 9 日、鶴見公会堂(神奈川県横浜市)．

④⑯ 青木直哉、東晋二、小林禅、細川雅人、近藤ひろみ、芳賀千恵、泉山洋子、都甲崇、勝瀬大海他．ニューロピルに認められる FUS 陽性微細顆粒について．第 52 回日本神経病理学会、2011 年 6 月 2 - 4 日、京都テルサ(京都府)．

④⑰ 藤城弘樹、井関栄三、藤城弘樹、峯岸通子、東晋二、都甲崇、勝瀬大海他．レビー小体型認知症のアミロイドアンギオパチーに関する神経病理学的検討．第 52 回日本神経病理学会、2011 年 6 月 2 - 4 日、京都テルサ

④⑱ 笠貫浩史、井関栄三、藤城弘樹、峯岸通子、東晋二、都甲崇、勝瀬大海他．レビー小

体型認知症脳における 18F-FDG PET の糖代謝低下部位の神経病理学的検討．第 52 回日本神経病理学会、2011 年 6 月 2 - 4 日、京都テルサ(京都府)．

〔図書〕(計 2 件)

河上緒、勝瀬大海、都甲崇：うつ病性仮性認知症 日常診療で出会う高齢者精神障害のみかた(栗田主一編著)中外医学社 112-117, 2011

浅野さわこ、勝瀬大海、都甲 崇．脳とこころのプライマリケア、第 7 巻 食事と性向精神薬による性ホルモンの異常と性機能障害．シナジー、228-238, 2011

6. 研究組織

(1) 研究代表者

勝瀬 大海 (KATSUSE Omi)

横浜市立大学・医学部・講師

研究者番号：40420674

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：